

行政視察 小倉健一 議員


日時: 令和7年7月24日(木)~7月26日(土)

場所: 北海道千歳市、北海道石狩市

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野新都市BT~羽田空港第1ターミナル	バス	往	103.1				3,900	3,900
羽田空港~新千歳空港	飛行機	往復	1,642.0			77,716		77,716
新千歳空港~千歳	鉄道	往	5.6	290				290
千歳駅前~あずさ3丁目	バス	往復	8.8				480	480
千歳~札幌	鉄道	往	41.0	1,040				1,040
さっぽろ~豊水すすきの	鉄道	往	1.4	210				210
すすきの~麻生	鉄道	往	6.1	250				250
地下鉄麻生駅~石狩庁舎前	バス	往	11.9				480	480
石狩庁舎前~札幌駅前	バス	復	16.5				490	490
さっぽろ(札幌市営)~豊水すすきの	鉄道	復	1.4	210				210
すすきの南4西3~新千歳空港	バス	復	56.8	1,300				1,300
羽田空港第1ターミナル~佐野新都市BT	バス	復	103.1				3,900	3,900
計				3,300	0	77,716	5,350	90,266

宿泊料@16,500×2泊	33,000 円
交通費	90,266 円
(うち航空運賃)	77,716 円)
計	123,266 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 亀田 昌久 

令和7年8月15日

佐野市議会議長 菅原 達 様

政友みらい 行政視察報告書

議員名 小倉 健一

1. 期日：令和7年7月24日（木）～7月26日（土）

2. 視察地及び視察事項

- (1) 千歳市防災学習交流センター
- (2) 石狩市 ゼロカーボンの取り組み

3. 参加議員

山菅直己 慶野常夫 小倉健一 大山圭司

4. 視察報告 (1) 千歳市防災学習交流センター

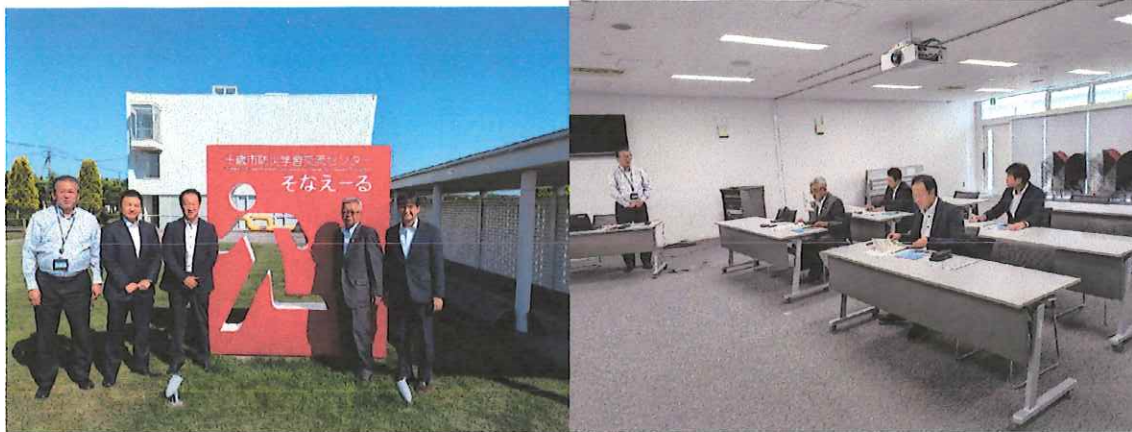
①千歳市の概要

- ・人口：約97,000人
- ・面積：約594.95km²
- ・議員定数：23人
- ・議員報酬：385,000円（月額）
- ・政務活動費：年額200,000円

②視察内容

千歳市防災学習交流センター「そなえーる」は、市民の防災意識向上を目的とした体験型施設である。施設では地震・火災・風水害などの災害を疑似体験できるほか、災害時に必要な備蓄品や避難生活の実例が展示されている。

視察では、段ボールベッドや車中避難の具体的対策など、実践的な備えが紹介されており、単なる知識ではなく「行動につながる防災教育」が徹底されている点が印象的であった。



(2) 石狩市 ゼロカーボンの取り組み

①石狩市の概要

- ・人口：約57,000人
- ・面積：約722.33km²
- ・議員定数：20人
- ・議員報酬：370,000円（月額）
- ・政務活動費：年額200,000円

②視察内容

石狩市では、再生可能エネルギーを活用したゼロカーボンシティの実現に向けた取り組みが進められている。特に、風力発電や太陽光発電など地域特性を活かしたエネルギー施策が推進されている点が特徴的であった。

また、環境施策と産業振興を一体的に進めており、データセンター誘致などによる地域経済の活性化と脱炭素の両立を図っている。



5. 所感

1日目:千歳市

防災学習交流センター「そなえる」における現地視察では、大雨による土砂災害や震度6強クラスの地震発生を想定した各種体験プログラムを通じて、市民の危機意識を高める実践的な防災学習の場として「体験」を通じて自らの行動に結びつける仕組みが構築されており非常に有効な施設と感じた。

また、千歳市は陸上・航空自衛隊の駐屯地を有し、関係人口が約25%を占めるとともに、半導体関連企業の進出により若い世代の人口割合が高く、北海道内でも特に若いまちである点が特徴的である。そのような地域特性を踏まえ、若年層に防災への関心を持ってもらうための多様な工夫がなされていた点も印象的であった。

本市佐野市においては、孤立可能性集落数が県内最多であり、発災時には支援が届きにくい状況も想定される。そのため、自助・共助・公助のそれぞれの役割を明確にし、地域単位での備えをより一層強化していくことが必要と考える。

今回の視察を通じ、体験型防災教育の導入や、地域特性に応じたターゲット層への働きかけの重要性を踏まえ、本市においても実効性の高い防災施策の推進に取り組むべきであると強く感じられた。

2日目:石狩市

印象に残ったことでは、石狩市のカーボンニュートラル関連施設で代表的な風力発電施設は健康被害懸念や動物保護等を理由に過去から今もなお反対の声があるとのこと。しかしながら国の安全基準、環境センサス等の基準を満たすべく、市民に対し細やかな対応をしている。また子どもたちへの工夫を凝らした教育活動や、職員自らキャラクターを作成したり演じたりPRに努めるなど、市民へのアプローチに余念がなく、これからも市民参加、運動への展開が期待される場所である。

視察前市役所から北方の石狩湾に立つ風車、付近で新たな防波堤建設か海中に鉄杭を打ち込む作業を目の当たりにしたが、海と共に歩む石狩市の過酷な整備環境、大規模事業計画遂行の経緯、市としての役割と責務が確かめられた。そして重ねて毎年東京の見本市でのPRと新規事業者との接触機会にも積極的に努められていることには大規模な事業遂行に国と事業者との関係性を今後も強く継続性持って進むのみとの石狩市の覚悟が感じられた。

本市は2022年ゼロカーボンニュートラル宣言を表明し、以降計画策定、具体的な取り組みも事業者、職員と協働のドライブコンテスト等見られるが、さらなる市民の認識と理解を図りながら事業者との関係性構築を積極的に進め、掲げたロードマップ、目標達成に向け着実に努めなければならない。